

GARMIN®

LIVESCOPE™ XR LVS62 振動子 インストールガイド

安全に関する警告と注意事項

△ 警告

製品に関する警告およびその他の重要な情報については、チャートプロッターの製品パッケージに同梱されている『安全および製品に関する警告と注意事項』ガイドを参照してください。

ユーザーは、船舶を安全かつ慎重に操縦する責任があります。ソナーは、水中の物体を探知するためのツールですが、航行中に船舶周辺の水中を観察する責任を免除するものではありません。

△ 注意

これらの指示に従わずに、この機器の取り付けや保守を行った場合、損害や負傷の発生する可能性があります。

注記

最大限の性能を発揮し、装置や船舶への損傷を防ぐために、この装置は以下の手順に従って設置する必要があります。

取り付ける前に、インストールガイドをすべてお読みください。取り付け時に問題が発生した場合は、support.garmin.com を参照してください。

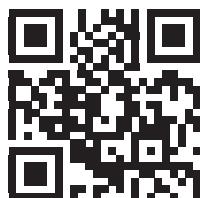
ソフトウェア更新

このデバイスを取り付ける場合は、Garmin®チャートプロッターのソフトウェアを更新する必要があります。ソフトウェアの更新手順については、support.garmin.com でチャートプロッターの操作マニュアルを参照してください。

取り付けサポートビデオ

このデバイスの取り付け時に、オンラインでビデオを表示してサポートを受けることができます。

ビデオを視聴するには、ウェブブラウザで garmin.com/videos/lvs62 にアクセスするか、スマートフォンでこの QR コードをスキャンします。



必要な工具

- ドリル
- ドリルビット : GLS™ 10 ソナーモジュールに選択した取り付け金具と表面に最適
- マイナスドライバーまたは 8 mm レンチまたはソケット : バレルマウントクランプの取り付けに使用
- 絶縁テープ (推奨) または結束バンド



パーツバッグ

振動子の取り付け金具は、ラベル付きバッグに入っています。取り付けプロセスを完了する際には、手順を完了するために必要なパーツバッグのラベルを参照することから各手順が始まります。この表を使用して、取り付け手順に必要なパーツバッグを確認または検証できます。

注：取扱説明書の中でバッグを開くよう指示があるまで、すべての部品をラベル付きバッグに入れたままにしてください。すべての金具がすべての取り付け方法に必要なわけではありません。

A	Perspective マウントを取り付ける際に必要な部品が含まれています
B	Perspective またはシャフトマウントを取り付けるときに必要な部品が含まれています
C	Perspective、シャフト、またはバレルマウントを取り付ける際に必要な部品が含まれています
D	バレルマウントを取り付ける際に必要な部品が含まれています
E	シャフトマウントを取り付ける際に必要な部品が含まれています
F	オプションの薄型取り付けネジが含まれています

取り付けに関する注意事項

注記

サードパーティ製マウントまたは自作のマウントを使用すると、振動子が損傷したり、紛失したりする恐れがあります。サードパーティ製マウントまたは自作のマウントを使用した場合に発生する損傷や紛失は、保証の対象外となります。

付属の金具を使用して、次の 3 つのいずれかの方法で振動子をトローリングモーターに取り付けることができます。

- Perspective マウント ([Perspective モードマウントへのトランステューサの取り付け, 5 ページ](#))
 - Perspective 表示マウントとブラケットを使用して、振動子をトローリングモーターシャフトに取り付けることができます。
 - Perspective 表示ブラケットを使用する場合は、Perspective ビュー、下向きビュー、前方ビューに振動子を使用できます。
- バレルマウント ([振動子をトローリングモーターバレルに取り付ける, 8 ページ](#))
 - 振動子は、トローリングモーターバレルのどちら側にでも取り付けることができます。
 - バレルに取り付ける場合は、振動子を下向き表示および前方表示に使用できます。
 - バレルに取り付ける場合は、振動子を Perspective 表示で使用することはできません。
- シャフトマウント ([振動子をトローリングモーターシャフトに取り付ける, 11 ページ](#))
 - 振動子は、トローリングモーターシャフトのどちら側にでも取り付けることができます。
 - シャフトに直接取り付ける場合は、振動子を下向き表示および前方表示に使用できます。
 - シャフトに直接取り付ける場合は、振動子を Perspective 表示で使用することはできません。
 - 振動子をシャフトに直接取り付けると、Perspective マウントブラケットを使用する場合よりも薄く取り付けることができます。

取り付ける場合は、次の点に注意してください。

- 選択した表示で正常に機能するよう、振動子を正しい角度にします。
- 付属のノブを使用して振動子を取り付けると、工具を使わなくてもソナー表示を変えることができます。
- ノブの代わりに付属の薄型金具を使用して、振動子表示を固定しまうこともできます。
- 振動子は起動、運搬、保管の際には、振動が加わらない場所に取り付ける必要があります。
- ソナーモジュールは適度な通気性があり、極端な温度変化のない場所に取り付ける必要があります。

- ソナーモジュールは、LED が見える場所、ケーブルを接続できる場所、およびデバイスが浸水しない場所に取り付ける必要があります。

ケーブルに関する注意事項

注記

結束バンドやケーブルクランプでケーブルを強く締めすぎると、モーターが繰り返し回転することにより、ケーブルの損傷、破損、またはケーブルの疲労の原因となる可能性があります。

黒い絶縁テープを使用して回転ジョイントの上下にケーブルを固定する必要があります。結束バンドを使用してケーブルを固定する場合は、結束バンドを強く締め過ぎないようにしてください。

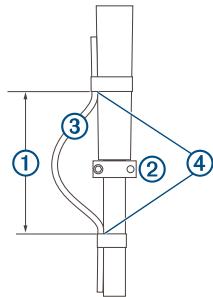
トローリングモーターのピボットジョイントの上下にケーブルを固定する必要があります。

ケーブルに 25 cm (10 in.) 以上のサービスループを作成する必要があります。ループの中心に回転ジョイントが配置されるようにします。

振動子ケーブルの取り回し

振動子とケーブルは、取り付け前にテスト接続してください。

- 回転ジョイント ② から上下に 10 cm (4 in.) ① 以上の隙間を確保して、ケーブルにループ ③ を作ります。ループは振動子が両方向に完全に回転できるように、十分な大きさにする必要があります。取り付け位置の間の 20cm (8 インチ) をカバーできるように、ケーブルに最低 25cm (10 インチ) の余裕を持たせます。
- 黒い絶縁テープ ④ を使用し、振動子ケーブルをシャフトに固定します。
- トローリングモーターを完全に回転させて、ケーブルが回転ジョイントに接触していないこと、回転によりケーブルが強く引っ張られないことをテストしてください。

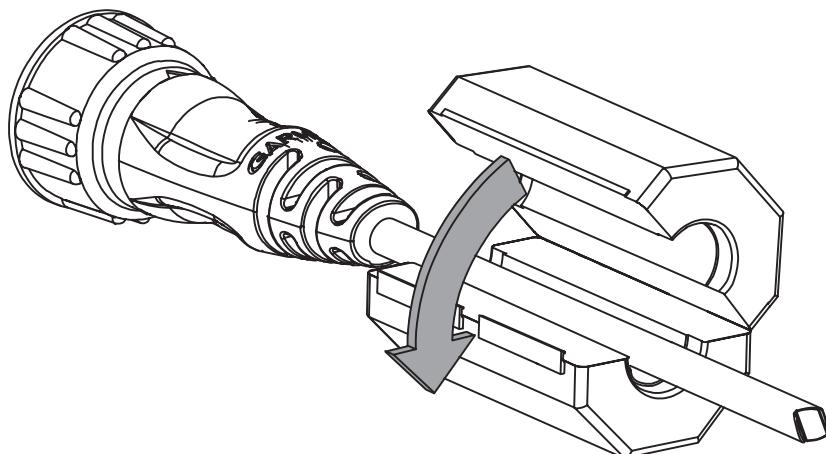


振動子ケーブルへのフェライトビーズの取り付け

注記

FCC 規制、および他の国の同様の規制（該当する場合）に準拠し、電磁干渉（EMI）または「ノイズ」を低減するために、各振動子ケーブルにフェライトビーズを取り付ける必要があります。

- 付属のフェライトビーズを振動子ケーブルのコネクタの近くに配置します。
- 振動子ケーブルにフェライトビーズをしっかりとはめ込みます。



オプションの分割式カラーの使用

穴を開けたり、設置時に狭いスペースにケーブルを配線する必要がある場合は、ケーブルを配線する前に、ケーブルの既存のソリッドロックカラーを取り外すことができます。ケーブルを最終位置に配線した後、接続する前に付属の分割式ロックカラーを取り付けることができます。

- 1 ペンチで既存のソリッドカラーを切断します。

注：既存のカラーを切断する際は、ケーブルやコネクタを損傷しないように注意してください。

- 2 ケーブルコネクタからソリッドカラーを取り外し、既存の O リングを保管します（損傷していない場合）。

- 3 ケーブルを接続位置に配線します。

- 4 必要に応じて、オプションの分割式カラーを 2 つのピースに分離します。

- 5 分割した 2 つのピースをケーブルコネクタに取り付けます。

- 6 元の O リングまたは付属の交換用 O リングのいずれかをコネクタの周囲に挿入し、カラーに差し込みます。

Perspective モードマウントへのトランステューサの取り付け

この手順に必要なパーツバッグを識別するラベル：

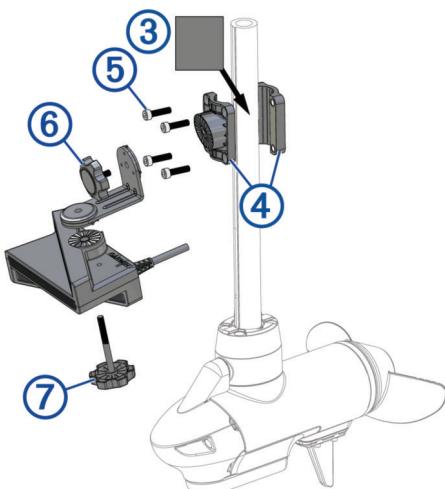
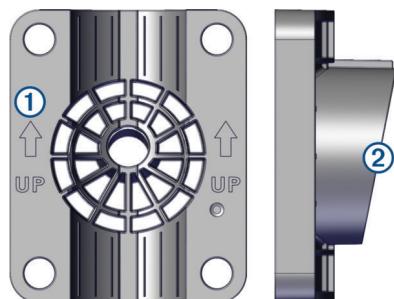


注記

取り付け時は、振動子ケーブルをシャフトまたは他の安全な場所へ固定する必要があります。振動子ケーブルのワイヤ、あるいはケーブルの損傷は、振動子の故障の原因になります。

注：ソナー画像に障害物が写らないようにするために、モーターからできるだけ離れたシャフトに振動子を取り付ける必要があります。

- 1 パーツバッグ **A** から、Perspective モードの延長アーム、取り付けブラケットの前半分、短いノブを取り出します。
- 2 パーツバッグ **B** から、取り付けブラケットの後半分、M6 六角レンチ、およびネジ 4 本を取り出します。
- 3 パーツバッグ **C** から長いノブを取り出します。
- 4 トローリングモーターシャフトの直径が 25 mm (1 in.) 以下の場合は、ラバーライナーをパーツバッグ **C** から取り出します。
- 5 取り付けブラケットの前半分にある矢印 **①** を確認して、ブラケットをトローリングモーターシャフトに取り付けるときに、ブラケットの傾斜部の幅の広い方 **②** が上になるようにします。
注：Perspective モードブラケットの角度は 11 度あり、延長アームは 3 つソナー表示のどれにでも変えることができます。
- 6 直径が 25 mm (1 in.) 以下のトローリングモーターシャフトに振動子を取り付ける場合は、マウントを取り付ける位置のシャフトにゴムライナー **③** を巻き付けます。



注：シャフト直径が 25 mm (1 in.) を超えるトローリングモーター（例：Garmin Force®トローリングモーター）に振動子を取り付ける場合は、ラバーライナーは必要ありません。

- 7 取り付けブラケットの前半分の内側にある矢印が上を向くように、シャフトの取り付けブラケット **④** の向きを合わせます。
ブラケットは、中央のネジ穴がトローリングモーターの前面を向くように位置合わせする必要があります。
- 8 トローリングモーターシャフトのゴムライナーの周囲にブラケットを置き、ネジ **⑤** をマウントブラケットに挿入して、M6 六角レンチで固定します。
- 9 (オプション) トローリングモーターの位置を設置位置から収納位置に変えてまた戻して、取り付けブラケットの位置を試して必要に応じて調整します。

10 延長アームを持ち、直角部分を下にして、短い方のノブ⑥を使用して延長アームの短い方の部分を取り付け ブラケットに取り付けます。

11 延長アームの長い方の部分の下に振動子を配置し、長い方のノブ⑦を使用して取り付けます。

注：使用中に振動子モードを頻繁に切り替えない場合は、ノブの代わりに付属の薄型金具で延長アームを取り付けブラケットに取り付け、振動子を延長アームに取り付けることができます（薄型取り付け金具を使用した振動子の取り付け、13 ページ）。

12 振動子ケーブルをモーターシャフトまたは他の安全な場所へ固定してください。

13 注意しながら振動子ケーブルをソナーモジュールの取り付け位置まで通します。

- ケーブルを配線します。このときケーブルがトローリングモーターの作動中にプロペラに接触しないよう してください。

- ケーブルは電線や他の電気的な干渉から離して配線してください。

- トローリングモーターを設置、収納する際は、ケーブルを挟まないように配線してください。

注：必要に応じて、ケーブルの長さを延長する場合は、オプションの延長ケーブルを接続できます。このケーブルは、buy.garmin.com または Garmin 販売店で購入できます。

14 振動子を任意の角度で設置します（表示モード、6 ページ）。

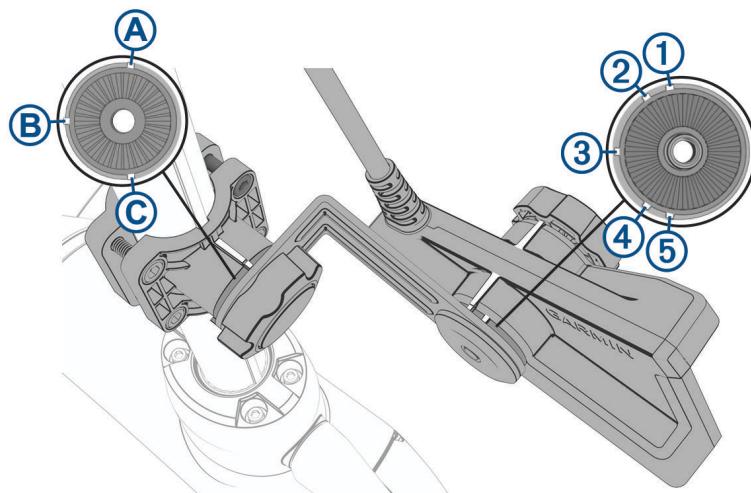
表示モード

Perspective モードマウントと延長アームを使用して、3 つのソナー表示間で振動子の方向角度を変更できます。

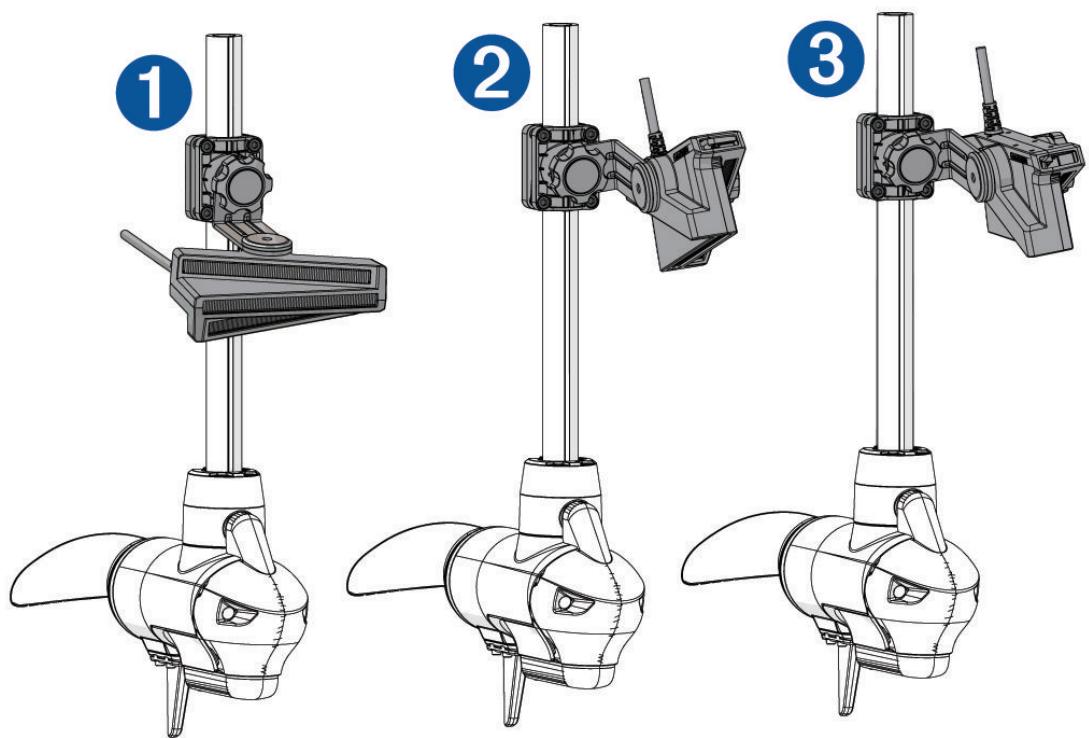
推進調整ノブを使用して振動子を取り付ける場合は、工具を使わなくても、これらの 3 つの視野の方向を変更できます。アームと振動子の方向を変更するにはノブを緩め、方向を設定してアームと振動子を締めてください。

ソナー表示は、Perspective マウントブラケットのノッチ、シャフトマウント、振動子を使用して確認できます。

注：振動子の金具のノッチにはラベルが付いていないため、ソナー表示を変更する場合、次の表と図を使用して振動子と Perspective 表示ブラケットの位置を把握できます。



Ⓐ および ①	左舷下向き表示
Ⓐ および ②	左舷前方表示
Ⓑ および ③	Perspective 表示
Ⓒ および ④	右舷前方表示
Ⓒ および ⑤	右舷下向き表示

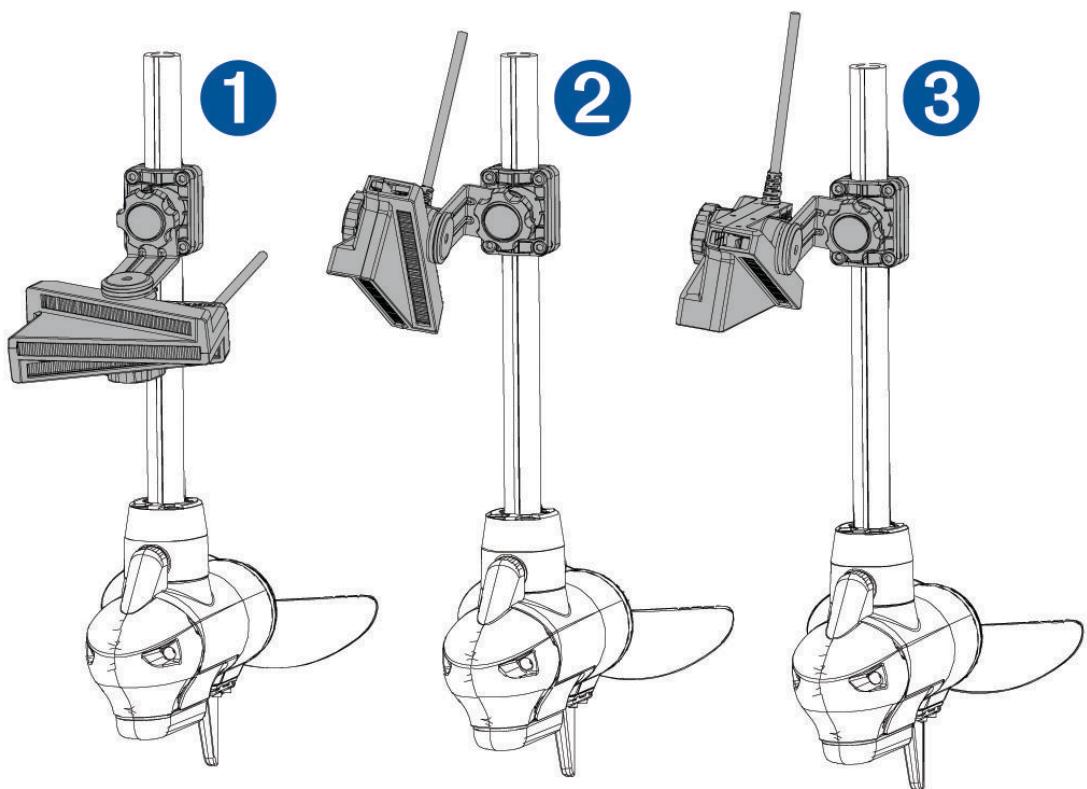


左舷での表示モードの例

① Perspective 表示 (ノッチ **B** および ③)

② 前方表示 (ノッチ **A** および ②)

③ 下方表示 (ノッチ **A** および ①)



右舷での表示モードの例

- | | |
|---|---------------------------------------|
| ① | Perspective 表示 (ノッチ B および ③) |
| ② | 前方表示 (ノッチ C および ④) |
| ③ | 下方表示 (ノッチ C および ⑤) |

ノブを締める前に、振動子と延長アームにあるマークの位置を合わせて、正しい向きになっていることを確認してください。

振動子をトローリングモーターバレルに取り付ける

この手順に必要なパーツバッグを識別するラベル：

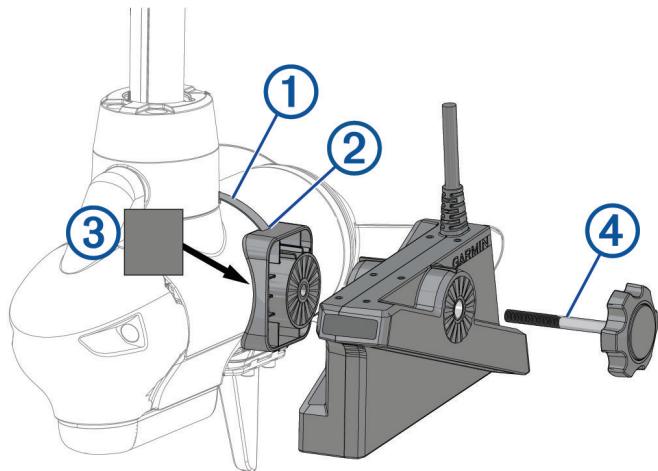


注記

取り付け時は、振動子ケーブルをシャフトまたは他の安全な場所へ固定する必要があります。振動子ケーブルのワイヤ、あるいはケーブル被覆の損傷は、振動子の故障の原因になります。

- 1 パーツバッグ **C** からラバーライナーを取り出します。
- 2 パーツバッグ **D** からホースクランプとトローリングモーターバレルマウントを取り出します。

- 3 ホースクランプ①をトローリングモーターマウント②のスロットに通して、マウントの両サイドから同じ長さが出るまで差し込みます。



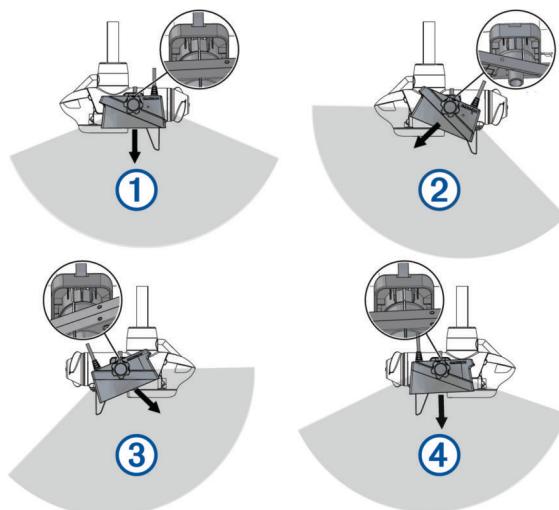
- 4 マウントを固定するトローリングモーターバレルにラバーライナー③を配置します。
- 5 マイナスドライバーまたは8 mmレンチ/ソケットで、ホースクランプをトローリングモーターバレルの周囲に固定します。
- 6 パーツバッグ④からノブを取り出します。
- 7 ノブを使用して振動子を取り付け、④を手で締めます。
- 注：使用中に振動子モードを頻繁に切り替えるつもりがない場合は、ノブの代わりに付属の薄型金具で振動子をマウントに固定することもできます（薄型取り付け金具を使用した振動子の取り付け、13ページ）。
- 8 振動子ケーブルをモーターシャフトまたは他の安全な場所へ固定してください。
- 9 注意しながら振動子ケーブルをソナーモジュールの取り付け位置まで通します。
- ケーブルを配線します。このときケーブルがトローリングモーターの作動中にプロペラに接触しないようしてください。
 - ケーブルは電線や他の電気的な干渉から離して配線してください。
 - トローリングモーターを設置、収納する際は、ケーブルを挟まないように配線してください。
- 注：必要に応じて、ケーブルの長さを延長する場合は、オプションの延長ケーブルを接続できます。このケーブルは、buy.garmin.com または Garmin 販売店で購入できます。
- 10 振動子を任意の角度に合わせて、取り付けます（トローリングモーターバレルの方向、10ページ）。

トローリングモーターバレルの方向

方向角度は、振動子をトローリングモーターのどちら側に取り付けるかと、求められる視野によって異なります。

推進調整ノブを使用して振動子を取り付ける場合は、工具を使わなくても、前方から下向き（またはその逆）に変更できます。方向を変更するにはノブを緩め、方向を設定するにはノブを締めてください。

注：ノブを締める前に、振動子とマウントに表示されているマークの位置を合わせて、正しい向きになっていることを確認してください。



①	左舷、下向き
②	左舷、前方
③	右舷、下向き
④	右舷、前方

振動子をトローリングモーターシャフトに取り付ける

この手順に必要なパーツバッグを識別するラベル：

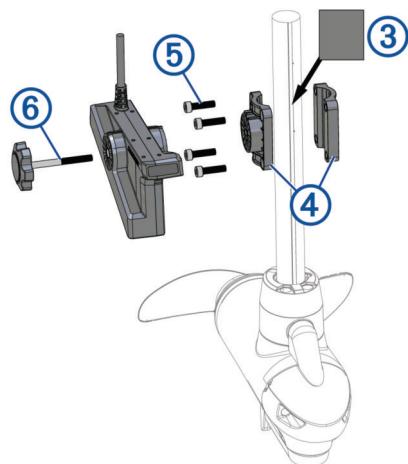
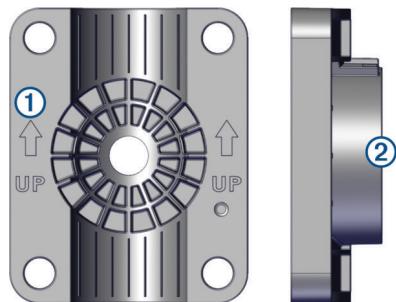


注記

取り付け時は、振動子ケーブルをシャフトまたは他の安全な場所へ固定する必要があります。振動子ケーブルのワイヤ、あるいはケーブルの損傷は、振動子の故障の原因になります。

注：ソナー画像に障害物が写らないようにするために、モーターからできるだけ離れたシャフトに振動子を取り付ける必要があります。

- 1 パーツバッグ **B** からシャフトマウントブラケットの背面とネジ 4 本を取り出します。
- 2 パーツバッグ **E** からシャフトマウントブラケットの前半分を取り出します。
- 3 トローリングモーターシャフトの直径が 25 mm (1 in.) 以下の場合は、ラバーライナーをパーツバッグ **C** から取り出します。
- 4 シャフトマウントブラケットの前半分にある矢印 **①** を確認して、ブラケットをトローリングモーターシャフトに取り付けるときに、ブラケットの傾斜部の幅の狭い方 **②** が上になるようにします。
- 5 直径が 25 mm (1 in.) 以下のトローリングモーターシャフトに振動子を取り付ける場合は、マウントを取り付ける位置のシャフトにゴムライナー **③** を巻き付けます。



注：シャフト直径が 25 mm (1 in.) を超えるトローリングモーター（例：Garmin Force トローリングモーター）に振動子を取り付ける場合は、ラバーライナーは必要ありません。

- 6 シャフトマウントブラケット **④** をトローリングモーターシャフトのラバーライナーの周囲に配置します。
- 7 ネジ **⑤** をシャフトマウントブラケットに挿入し、パーツバッグ **B** の M6 六角レンチで固定します。
- 8 (オプション) トローリングモーターの位置を設置位置から収納位置に変えてまた戻して、取り付けブラケットの位置を試して必要に応じて調整します。
- 9 パーツバッグ **C** からノブを取り出します。
- 10 ノブを使用して振動子をマウントに取り付け、**⑥** を手で締めます。

注：使用中に振動子モードを頻繁に切り替えない場合は、ノブの代わりに付属の薄型金具で振動子をマウントに固定することもできます（薄型取り付け金具を使用した振動子の取り付け、13 ページ）。

11 振動子ケーブルをモーターシャフトまたは他の安全な場所へ固定してください。

12 注意しながら振動子ケーブルをソナーモジュールの取り付け位置まで通します。

- ケーブルを配線します。このときケーブルがトローリングモーターの作動中にプロペラに接触しないようしてください。

- ケーブルは電線や他の電気的な干渉から離して配線してください。

- トローリングモーターを設置、収納する際は、ケーブルを挟まないように配線してください。

注：必要に応じて、ケーブルの長さを延長する場合は、オプションの延長ケーブルを接続できます。このケーブルは、buy.garmin.com または Garmin 販売店で購入できます。

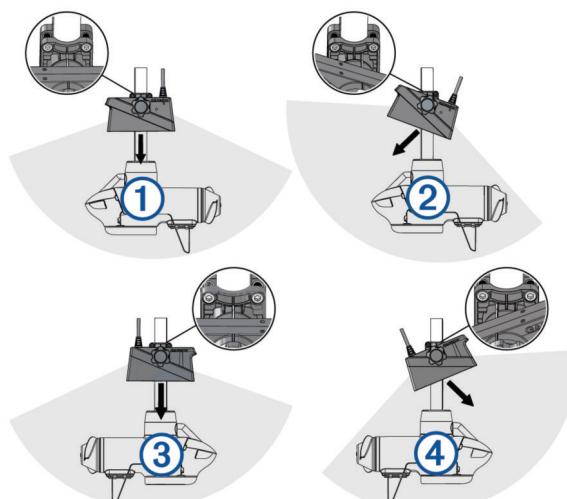
13 振動子を任意の角度に合わせて、ノブを締めます ([振動子をトローリングモーターシャフトに取り付ける](#), 11 ページ)。

トローリングモーターシャフトマウントの方向

方向角度は、ブラケットをトローリングモーターシャフトのどちら側に取り付けるかと、求められる視野によって異なります。

推進調整ノブを使用して振動子を取り付ける場合は、工具を使わなくても、前方から下向き（またはその逆）に変更できます。方向を変更するにはノブを緩め、方向を設定するにはノブを締めてください。

注：ノブを締める前に、振動子とマウントに表示されているマークの位置を合わせて、正しい向きになっていることを確認してください。



①	左舷、下向き
②	左舷、前方
③	右舷、下向き
④	右舷、前方

薄型取り付け金具を使用した振動子の取り付け

振動子の表示モードを頻繁に変更しない場合や調整ノブを使わずに薄く取り付けたい場合は、ノブの代わりに付属の金具で振動子を取り付けることができます。

この手順に必要なパーツバッグを識別するラベル：



- 正しい手順に従って、取り付けブラケットをトローリングモーターバレル (振動子をトローリングモーターバレルに取り付ける, 8 ページ)、またはシャフト (振動子をトローリングモーターシャフトに取り付ける, 11 ページ) (Perspective モードマウントへのトランステューサの取り付け, 5 ページ) に固定します。ここでは付属の調整ノブは使用しません。
- 以下のようにして、アクションを選択します。
 - 振動子をトローリングモーターのバレルまたはシャフトに取り付ける場合は、パーツバッグ **F** の長い薄型ネジと金属製ワッシャーで、振動子を取り付けブラケットに固定します。
 - Perspective モードマウントと延長アームを使用して振動子を取り付ける場合は、パーツバッグ **F** の短い薄型ネジと金属製ワッシャーで延長アームを取り付けブラケットに固定し、パーツバッグ **F** の長い薄型ネジと金属製ワッシャーで振動子を延長アームに固定します。
- 振動子の表示を調整し、パーツバッグ **F** の M5 六角レンチで薄型ネジを締めます。

振動子をポールに取り付ける

付属の金具を使用して、振動子をポール (別売) に取り付けることができます。振動子をポールに取り付ける方法は振動子をトローリングモーターシャフトに取り付ける方法と似ています。必要に応じて、ポールに振動子を取り付ける際に、トローリングモーターシャフトに振動子を取り付ける図を参照できます (振動子をトローリングモーターシャフトに取り付ける, 11 ページ)。

注：付属のフラットブラケットを使用して、振動子をポールに取り付けることができます。

この手順に必要なパーツバッグを識別するラベル：



注記

取り付け時は、振動子ケーブルをポールまたは他の安全な場所へ固定する必要があります。振動子ケーブルのワイヤ、あるいはケーブルの損傷は、振動子の故障の原因になります。

- パーツバッグ **B** からポールマウントブラケットの背面とネジ 4 本を取り出します。
 - パーツバッグ **E** からポールマウントブラケットの前半分を取り出します。
 - ポールの直径が 25 mm (1 in.) 以下の場合は、ラバーライナーをパーツバッグ **C** から取り出します。
 - ポールの直径が 25 mm (1 in.) 以下の場合は、マウントを取り付ける位置のポールにゴムライナーを巻き付けます。
 - ポールマウントブラケットをポールのラバーライナーの周囲に配置します。
 - ネジをポールマウントブラケットに挿入し、パーツバッグ **B** の M6 六角レンチで固定します。
 - パーツバッグ **C** からノブを取り出します。
 - 振動子をポールマウントブラケットに配置し、ノブで固定します。
- 注：使用中に振動子モードを頻繁に切り替えない場合は、ノブの代わりに付属の薄型金具で振動子をマウントに固定することもできます (薄型取り付け金具を使用した振動子の取り付け, 13 ページ)。
- 振動子ケーブルをポールまたはその他の安全な場所に固定し、ソナーモジュールの位置にケーブルを配線します。

GLS 10 Black Box 装置の取り付け

注記

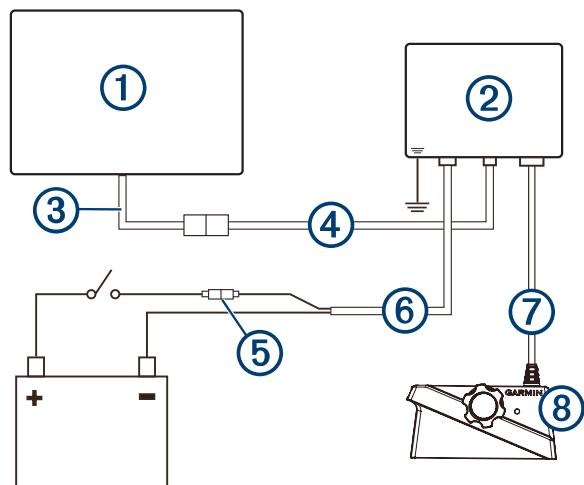
デバイスをグラスファイバーに取り付ける場合は、パイロットホールをドリルで開けるときに、カウンターシンク形のドリルで、最上部のジェルコーティング層のみにカウンターボア（ナットの頭を収める空間）を開けてください。このように処理することで、ねじを締めるときにジェルコーティング層のひび割れを防ぐことができます。

注：ねじはデバイスに同梱されていますが、取り付け面に適していない可能性があります。

デバイスを取り付ける前に、取り付け位置を選択し、取り付け面に適したねじと取り付け部品を決定します。

- 1 Black Box デバイスを取り付け位置に設置し、パイロット穴の位置に印を付けます。
- 2 デバイスのいずれか 1 つの隅の位置にドリルでパイロット穴を開けます。
- 3 対応するデバイスの隅を取り付け位置に仮止めし、残り 3 つのパイロット穴の印を確認します。
- 4 必要に応じて、パイロット穴の位置を付け直し、取り付け面からデバイスを外します。
- 5 残りのパイロット穴を開けます。
- 6 取り付け位置にデバイスをしっかりと取り付けます。

取り付け図



① 互換性のある Garmin チャートプロッター¹

② LiveScope GLS 10 ソナーモジュール

③ Garmin Marine Network アダプターケーブル (Garmin 部品番号 010-12531-01)

④ Garmin Marine Network ケーブルの小型コネクターを NETWORK ポートに接続します

水面

注記

ソナーモジュールとチャートプロッター同じアースに接続する必要があります。

7.5 A 速断ヒューズ

注記

ヒューズを取り外さないでください。ヒューズを取り外すと、デバイスが誤動作する可能性があり、保証が無効になります。

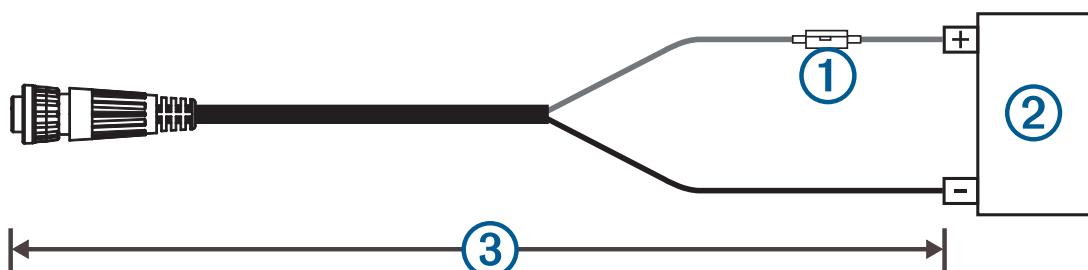
⑥ LiveScope GLS 10 電源ケーブルを POWER ポートに接続します

⑦ 振動子を XDCR ポートに接続します

⑧ LiveScope XR LVS62 振動子

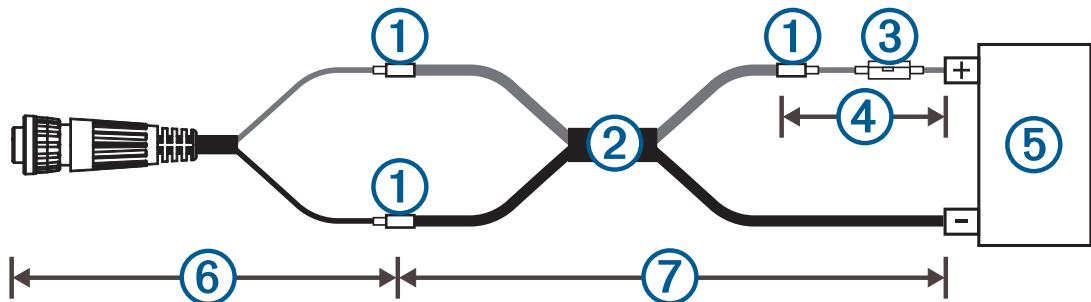
電源ケーブルの延長

必要に応じて、延長する長さ分の適切なワイヤゲージを使用して電源ケーブルを延長できます。



アイテム	説明
①	ヒューズ
②	電池
③	2.7 m (9 ft.) 延長なし

¹ チャートプロッターの接続については、チャートプロッターインストールガイドを参照してください。



アイテム	説明
①	延長
②	<ul style="list-style-type: none"> 10 AWG (5.26 mm²) 延長ケーブル、最大 4.6 m (15 ft.) 8 AWG (8.36 mm²) 延長ケーブル、最大 7 m (23 ft.) 6 AWG (13.29 mm²) 延長ケーブル、最大 11 m (36 ft.)
③	ヒューズ
④	20.3 cm (8 in.)
⑤	電池
⑥	20.3 cm (8 in.)
⑦	最大延長 11 m (36 ft.)

点滅コード

ソナーモジュールの取り付け後、チャートプロッターがオンになると点灯します。ソナーモジュール上のカラーステータス LED が動作状態を示します。

LED の色	状態	ステータス
緑	点滅	ソナーモジュールはチャートプロッターに接続され、正常に機能しています。チャートプロッター上からソナーのデータを確認してください。
赤	点滅	ソナーモジュールはオンになっていますが、チャートプロッターに接続されていないか、チャートプロッターへの接続待ちです。ソナーモジュールがチャートプロッターに接続されており、このコードの状態が続く場合には、配線の接続を確認してください。
橙	点滅	ソフトウェアの更新中です。
赤 / 緑	点滅	予約済み
赤	2 回点滅のあと、3 秒停止	それ以外のソナーの不具合
赤	3 回点滅のあと、3 秒停止	振動子がソナーモジュールから検出できません。このコードの状態が続く場合には、配線の接続を確認してください。
赤	5 回点滅のあと、3 秒停止	ソナーモジュールの入力電圧が最大入力電圧を超えていません。

振動子の設定と操作

振動子の設定と操作の情報については、チャートプロッターのマニュアルを参照してください。

表示モードの設定

振動子の取り付け後、ソフトウェアで振動子の使用方法を設定する必要があります。

1 以下のようにして、アクションを選択します。

- チャートプロッターで、ソナー > LiveScope > オプション > 魚探設定 > インストール > 方向の順に選択します。

2 振動子で使用する表示モードを選択します。

ヒント：使用中に振動子の表示モードを変更する場合は、最適な結果を得るために自動を選択する必要があります。

コンパスを校正する

コンパスを校正する前に、磁気干渉を回避するために変換器をトローリングモーターから十分に離して取り付け、水中に配置する必要があります。内部コンパスを有効にするには、校正の品質が十分である必要があります。

注：振動子をモーターに取り付けるとコンパスが機能しない場合があります。

注：最適な結果を得るには、SteadyCast™ヘディングセンサーのようなヘディングセンサーを使用してください。ヘディングセンサーは、ボートに対する振動子の方法を示しています。

船舶の回転を開始してから校正を行いますが、校正中に船舶を1周半完全に回転させる必要があります。

1 該当するソナー表示から、オプション > 魚探設定 > インストールの順に選択します。

2 必要に応じて、AHRS (姿勢方位基準装置) を使用するを選択して、AHR センサーをオンにします。

3 コンパスの校正を選択します。

4 画面に表示される手順に従います。

付録

LiveScope XR LVS62 の仕様

寸法 (長さ×高さ×幅)	208.25 x 101.00 x 70.10 mm (8.20 x 3.98 x 2.76 インチ)
重量 (ケーブル付き振動子)	1,778 g (3.92 ポンド)
重量 (ケーブルなし振動子)	1,205 g (2.66 ポンド)
周波数	265 ~ 550 kHz
動作温度	0° ~ 40°C (32° ~ 104°F)
保管温度	-40° ~ 85°C (-40° ~ 185°F)
最大深度または距離 ²	淡水 : 152 m (500 フィート) 塩水 : 106 m (350 フィート)
視野	前後 : 135 度 左右 : 20 度

² 塩分濃度、底質、その他の水の条件によって変わります。

LiveScope GLS 10 ソナーモジュールの仕様

寸法 (幅×高さ×奥行き)	245 x 149 x 65 mm (9.7 x 5.9 x 2.6 in.)
重量	1.96 kg (4.33 lbs)
動作温度	-15° ~ 70°C (5° ~ 158°F)
保管温度	-40° ~ 85°C (-40° ~ 185°F)
電源入力	DC 10 ~ 32 V
消費電力	標準 21 W、最小 24 mW、最大 58 W
コンパス安全距離	178 mm (7 in.)
データ出力	Garmin Marine Network

オープンソースソフトウェアライセンス

この製品に使用されているオープンソースソフトウェアライセンスを表示するには、developer.garmin.com/open-source/linux/にアクセスします。

振動子のクリーニング

水中の汚れが溜まりやすく、デバイスのパフォーマンスが下がることがあります。

- 1 柔らかい布と低刺激性の洗浄液で汚れを取り除きます。
- 2 デバイスの湿気を拭き取ります。

© 2022 Garmin Ltd. or its subsidiaries

Garmin®およびGarmin ロゴは、Garmin Ltd.とその子会社の米国およびその他の国における登録商標です。LiveScope™、およびGLS™は、Garmin Ltd.とその子会社の商標です。これらの商標を、Garmin 社の明示的な許可なしに使用することはできません。

M/N: B04391

Garmin Corporation